

“Algae” という名のイルカ

北米 Florida 州の Marineland にある Marine Studios の水族館には、数尾のイルカ (porpoise) が飼つてあるが、プールの上空に餌を吊してやると、水中から高く飛び上つて餌を取るようにならしてあるので人気を呼んでいる。中でも花形選手は 16 呎の高さまで跳躍するイルカであつて、このイルカは “Algae” という名が付けられているという。UP-Sun Photo 提供のニュースで、ジャパン・タイムズ 8 月 12 日の紙面にその写真が載つている。

Algae という複数名詞を、イルカの名前に付けるという感覚はわれわれにはちよつと理解しにくいところであるが、強いて想像すればこのイルカの皮膚にまだら模様があつて、海藻の茂つた有様を思わせるのもあろうか。それはともかく、一びきのイルカの固有名詞に使われた例として記録に値する。(北海道大学水産学部 時田 郁)

クロキツタ *Caulerpa scalpelliformis* (R. BROWN) AG. var. *denticulata* (DECSN.) WEBER VAN BOS. の一産地

昭和 29 年 5 月 4 日愛媛県西宇和郡伊方村 (現在伊方町) ノ内仁田之浜の海岸の岩礁上にクロキツタが多数群生しているのを発見した。低潮線及び低潮線下 30~70 cm の間の岩礁上に着生し、体高は 10~20 cm で浅海産のものである。最近自然的環境変異の関係か年々生育減退し、もしこのままの状態で推移するとすれば将来或は絶滅するかもしれないので報知し記録にとどめておく。(伊方町 野村義弘)

涸沼臨湖実験所の誕生

茨城大学文理学部生物学教室では、かねてから涸沼に面する民家の離れを借用し、非公式に茨城大学涸沼研究室の看板を掲げ、若干の研究設備を整えて、湖沼学的生物学的な研究を続けてきた。しかし借家住いでは何かと不便であり、小さくとも独立の研究室を建て、大学の正式な研究機関として活潑な研究をすることが要望されていたところ、幸にも地元の茨城県東茨城郡石崎村から、風光明媚な親沢鼻に 210 坪の用地が無償で提供され、茨城文化振興会からは実験室新営基金として 30 万円が寄託された。このような地元の協力により、昨年 12 月上旬に木造 12 坪半の実験室が落成し、茨城大学直属の研究機関として、涸沼臨湖実験所 (Hinuma Hydrobiological Station) が誕生した。初代所長には生物学教室主任の佐藤正己教授が任ぜられ、文理学部から 5 名、教育学部から 2 名の教官が所員を命ぜられたので、その氏名と研究テーマを次に掲げる。